めいろうこどもえん　３月園だより

２０１６年度　年主題〈平和をともに〉

0･1･2歳児３月主題　「すすんで」

月のねがい

◎大きくなったことを神様に感謝し、共に喜ぶ
◎自分でできることに喜びをもつ
◎戸外で早春の自然にふれ、探索する
◎保護者や保育者間の丁寧な連携の中で安心して進級する

3･4･5歳児３月主題　「希望」

月のねがい

◎神様の守りの中で大きくなったことを感謝し、安心と希望をもって歩みを進める
◎友だちと知恵や力を出し合いながら、工夫して遊ぶ
◎共に過ごしてきた仲間をかけがえのない大切な存在であると感じる

今月の聖句「しゅはたからかにうたってあなたのことをよろこばれる」

ゼパニヤ 3:17

このことばをしたためたゼパニア（神宝の意）という人は、紀元前6世紀ごろのイスラエル国の預言者でした。預言者の務めは国民の精神的指導者として、人の道を離れず、悪に染まらないように勧める人でした。

今月のことばの意味はゼパニア書全体を読まないと17節だけのことばでは正しく伝わりません。そこで、概要を説明しますと、生活の面でも道徳的な面でも退廃してしまったイスラエル民族を神は徹底的に懲らしめ、罰すると宣言した後で、もし、謙遜になって生き方を改め、神意に従うものとなれば、その人を「喜んで迎える」という内容です。

放蕩に身を委ね、人生の敗者となった者も、もし、自分の過ちに気付き、親のもとに帰り、「赦してください。」と謝るなら、その放蕩息子（娘）のために親は大きな**喜びを**もって帰って来た子を受け入れるということです。**「人生はやり直しがきく」**というのがこの預言者が一番伝えたかったことです。

ところで、これを家庭教育の場に移して考えると、子どもの失敗を咎めてばかりではなく、「お父さん（お母さん）は、あなたが必ず立ち直ることができると信じているよ。」と、人生何回でもやり直しがきくことを、親自身も信じて、あきらめずに伝え続けることが肝心です。立ち直った子の姿を見る親は大いに喜ぶことができます。

前理事長　池田公榮

３月の行事予定

１日（水）	参観日（すみれ・たんぽぽ）
２日（木）	参観日（あじさい・こすもす）
７日（火）	３月生まれ誕生会
８日（水）	**※弁当日**
１５日（水）	お別れ会・給食バイキング
１８日（土）	卒園式・父母の会決算総会（※午前保育）
２２日（水）	修了式（１号:午前保育）
30（木）,31（金）	年度末休業日

４月の行事予定

７日（金）	始園式（１号:午前保育）
８日（土）	入園式・クラス会
２２日（土）	親子遠足

退職のお知らせ

川内志織保育教諭，市之瀬良佳保育教諭が３月末日をもって退職致します。皆様には大変お世話になりました。ご支援に心より感謝申し上げます。

星とたんぽぽ

金子みすゞ

青いお空のそこふかく、
海の小石のそのように、
夜がくるまでしずんでる、
星のお星はめにみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬけれどもあるんだよ。

ちってすがれたたんぽぽの、
かわらのすきにだァまって、
春のくるまでかくれてる、
つよいその根はめにみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬけれどもあるんだよ。

それぞれの憧れ・・

とうとう3月を迎えました。ありきたりな言葉ですが、1年は本当にあっという間です。私は、こども園の仕事を始めてからというもの年齢の半分ぐらいしか生きていないような‥そんな錯覚を覚えてしまうほどです。（だから、永遠に30歳ぐらいな気分･･･）

昨年度の月報を見ましたら、ここの文章がなわとびの様子を伝えていました。今年もなわとびのほんわかエピソードを紹介します。昨年のなわとび最高記録は、400回でした。今年は、それを上回る1000回が今のところ最高記録です。Yちゃんが1000回を飛んでいる最中のこと、たんぽぽ組さんが口々にこんな話をしていました。

①「先生、2回戦は、上靴脱いで飛んでいい？」「体育館は床だから足　が痛いよ！」と伝えると「大丈夫！だってYちゃん上靴脱いでいるも　ん！」

②「先生！カラー帽子をこんな風にかぶっていい？」

‥目が見えるか見えないかぐらいの斜めかぶり‥

「いいけど、目が見えてないじゃない？」「だって、Yちゃんがこんな　風にかぶって飛んでるよ！」

この後の2回戦は、上記の作戦を決行！斜めかぶり、裸足（靴下を脱ぐ子も‥）でチャレンジしていました。少しでもYちゃんに近づきたい、もっともっと飛びたい！そんな気持ちがたくさん感じられた出来事でした。これから小学校にいっても友だちと切磋琢磨し、チャレンジする意欲はこのまま持ち続けてほしいと思うことでした。

年中児さんも3歳児さんも、この様子はちゃんと記憶の中にとどめて欲しいと願うことでした。かっこいい姿をたくさん見せてくれた年長児さんの姿を、来年度もそのまま引き継いでくれることでしょう！！　森山

～保育参観～

～おやこ保育～

～卒園式～

～お別れ遠足～

旅立ちの春

三寒四温を経て、一雨ごとに暖かみを増してきました。余寒も過ぎ、弥生三月を迎えます。弥（いよいよ・ますます）生（生い茂る）とは、文字通り草木が芽吹く季節。河津桜は満開を迎え、いよいよソメイヨシノの花がほころび始めました。一年の仕上げのとき、喜びと寂しさのときでもあります。

先日、南日本新聞の”ひろば”の欄に、本園の持久走大会での出来事が投稿されていました。生まれつき身体が弱く、支援の必要なお孫さんが、周りの暖かい応援の中で、四〇〇メートルを完走できた喜びが綴られていました。この世に生を受けてから心配続きの四年間だったことでしょう。懸命に、しかも淡々とゴールを目指す姿は、その日、そこに居合わせたすべての人に爽やかな感動を与えてくれました。投稿の最後にあったお祖父様の言葉「みんなありがとう」に、私たちこそお伝えしたい。「Mちゃん、仲間になってくれてありがとう！」と。

乳幼児期は、”生涯にわたる人格形成の基礎が培われる”重要な時期であると教育・保育要領に示されています。意図された適切な環境の中で、あそびを中心とした活動を十分に経て、小学校以降の学習の場に入っていくことが大切です。時間を忘れて何かに熱中できることは学ぶ力の根っこだと思います。そして、簡単に諦めないで何度もチャレンジする根気が、学びの力を強めていくのではないでしょうか。SI教育の白濱先生は、生き生きとした知力を育むには、次の五つの力が大事であると言われました。①自分からやる気になる②面倒くさいことを面倒くさがらないでする③注意の集中力が高い④自分の意思や考えを主張できる⑤目的を持って取り組む。どれも非認知能力と呼ばれる目に見えない力の結集ですね。これらの能力を基に、夢に向かって自分を肯定的に捉えられる子どもに育て欲しいと思います。物事を真面目に捉えられる誠実さの基盤は、様々な体験と他者との交わりの中で培われます。これから益々いろんなことに挑戦し、主体的な探究心を育んで欲しいものです。

子どもたちを忍耐強く、温かく見つめ養い育てていくことは、希望に胸ふくらませて春を待つ気持ちに通じます。多様化する時代にあっても、**一番大切なものは、いつも目に見えない**のだということを忘れずにいてほしいです。金子みすゞの詩にあるように、昼の星やたんぽぽの根のごとく、見えないけれど確かに在る神さまの大きな愛と人々の愛に満たされ、心優しいひかりの子として歩むことが出来ますように祈っております。この一年間、保護者の方々には色々な面でご支援ご協力を戴き、誠にありがとうございました。多くの足らざるところをお詫びし、心より感謝申し上げます。

園長

できたらかっこいい　ただしいやりかた　③

いよいよ３がっき！こあらグループのおともだちは、すこしずつ１ねんせいになるじゅんびをしよう！できなくてもだいじょうぶだよ！できたらかっこいいし、しっているとべんりなこと。じぶんでかんがえてチャレンジしてみよう！